



追悼号

平成29年7月26日

OBIHIRO ROTARY CLUB

DISTRICT 2500

ばんりいっくう
方針 万里一空 『Let's go』

会長 國枝千秋

2017-18年度国際ロータリーのテーマ ロータリー：変化をもたらす

お別れの言葉

第2500地区パストガバナー、帯広ロータリークラブ元会長 故 奥周盛 会員のご霊前に謹んでお別れの言葉を申し上げます。

帯広ロータリークラブ会員一同、ここに深く哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様にご心からお悔やみを申し上げます。

奥パストは平成5年1月6日に、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を推奨し、これを育むことにある、帯広ロータリークラブに入会されました。平成7年会報委員長をはじめ、理事9回、役員5回、委員長4回の要職を歴任され、2007-08年度会長、2008-09年度ガバナー補佐、2014-15年度第2500地区ガバナーとして重責を担われました。その後も地区の役員を務められ、豊富な経験をもとに私たちにご指導いただけると楽しみにしていましたが、誠に残念でいたしかたありません。奉仕プロジェクト寄付としてポールハリスソサエティー入会、ベネファクター、米山奨学功労者マルチプルなど多大なご協力を頂きました。

奥パスト会長年度のテーマは誠心誠意「心込めて意を尽くし、その喜びを分かち合おう」 結びに「無理も背伸びも必要ありませんが、前向きで一寸だけ積極的な気持ちを持ち続けたいものです」と述べていました。いつも前を向いて、どのような役職でも、心を込めリーダーシップを発揮されました。ガバナーの時にすでに病魔に襲われていたのかもしれませんが、テーマ通り「強い心」をもってロータリー人生を歩まれている姿を拝見していました。

ガバナー年度の地区大会・会場設営準備、式典運営をスタッフとして働いた事が最大の思い出でした。楽しかったです。しばらくたって「優しい目」で、「ちあきちゃん、ありがとう」の言葉をかけられたことが忘れられません。厳しい人でしたが、少しお茶目で優しい心を持たれた人でした。

「何事も精一杯やらずに終わった反省は、悔いだけが残る。一生懸命やった後の反省には、感動と勇気が湧いてくる」この言葉は会長年度を振り返った言葉です。奥パストは「心を込めて」・「前向きに積極的に」そして「一生懸命」の言葉を残してくれました。そして、この言葉を奥パストは最後の最後までロータリー活動だけでなく、ほかの団体役員としても実践されました。ご苦労様でした。

どうか心安らかに眠りください。奥パストのご冥福をお祈りいたします。



帯広ロータリークラブ
故 奥 周 盛